

第5回丹波新地域ビジョン検討委員会 記録

1 開催日時 令和3年12月20日(月) 18:00～20:00

2 場 所 柏原総合庁舎 柏原職員福利センター 1階会議室

3 出席者

委員(五十音順)

角野委員長、上甫木委員、岸委員、清水(夏)副委員長、
清水(徳)委員、鈴木委員、瀧山委員、谷水委員、土性委員、中川委員、
専門アドバイザー
平櫛委員、光井委員

※欠席委員：安達委員、足立委員、構井委員、藤田委員、宮垣委員

事務局

丹波県民局：今井県民局長、岡副局長兼県民交流室長、柳瀬県民交流室次長、
西原班長、竹村
本庁ビジョン課：吉住主幹

4 内 容

(1) 開会

- ・今井県民局長あいさつ
- ・角野委員長あいさつ

(2) 議事

- ①丹波新地域ビジョン素案
- ②資料編
- ③パブリック・コメントの実施
- ④その他

(3) 閉会

5 議事録

(1) 開会

今井局長

- ・前回の委員会の後、委員の皆さんには、新ビジョンで大事にしていくべき価値について意見を伺った。そこで頂いたご意見も踏まえ、基本理念を書いている。
- ・一般の方にはアンケートを実施し、1,000名弱の方からご意見を頂いた。地域の方の意向も知ることができた。その中では、丹波には変化が必要だという意見が多数であることなどを確認した。
- ・前回の委員会では、内容の交通整理が必要とのご指摘を頂いた。事務局だけでは知見が足りない所については、本日までに学識の方に2回お集まりいただき、議論をしていただいた。
- ・来年度の県民局施策の方向性も意識した内容で、素案を作成している。
- ・委員の皆様には、新ビジョン策定後も色々な形で関わっていただきたい。どのように関わられるかという視点でも、是非ご意見を頂きたい。

角野委員長

- ・前回の委員会以降、様々な内容が積み重ねられている。本日はそれら踏まえた素案が出てきている。
- ・次のステップにはパブリック・コメントを控え、今が山場というところ。忌憚のないご意見を頂きたい。自分事としてどのようにビジョンに関わっていけるかというところも念頭に、ご発言をお願いしたい。

(2) 議事

議題(1) 丹波新地域ビジョン素案

事務局から説明

委員からのご意見

委員

- ・7ページのもりびとの説明で、「自律」という言葉の確認。「自立」ではないか。
- ・写真の使い方について、タイトルと写真の使い方の統一感を出した方がよい。
- ・丹波の森づくりの理念、活動についての記述が出てくるので、丹波年輪の里や、丹波の森公苑の写真をしっかり使った方がよい。
- ・写真は、将来像の実現に向けた写真の使い方、重点的に取り組むものをしっかり見せていくべき。
- ・この地域ビジョンはガイドライン、バイブルになる。写真の使い方は大事。大きさも含め、検討いただきたい。
- ・31ページの黒豆の収穫体験の写真について、日本農業遺産のことを述べられているので、丹波篠山市の写真を使用した方がよい。

事務局

- ・「自律」については、現在の地域ビジョンの文言をそのまま使っている。

委員

- ・28ページの、まちの拠点創造プロジェクトについて、これからの時代は、プレイヤーの養成とともにチューターやコーディネーターの育成も必要。育成の場の機能を付加したらよいのではないか。丹波地域レベルでの育成の場を、まちの拠点創造プロジェクトで位置付けてはどうか。
- ・40ページに「丹波縄文の森塾」が唐突に出てくる。縄文里山文化ということを含弧書きで入れてはどうか。そうすることで、森の保全に関する記述の中での里山の部分との、つながりが分かりやすくなるのではないか。

委員

- ・29ページのスマート農業について、お金がかかるイメージ。言葉としては良いイメージかもしれないが、あまり多用しすぎるのはどうか。多用せずに他の表現で書いていただければ。

事務局

- ・スマート農業については、協議会方式で、全員で道具や人材をシェアして取り組もうとしていて、必ずしもお金がないとできないという位置づけにはしていない。そのような説明書きを加えるので、文言は使わせていただけるとありがたい。

委員

- ・展開方向2と15に、関連するシンボル・プロジェクトがない。例えば展開方向2は、アクティブ・フォレスト・プロジェクトと関わってくる。星取り表に何もないと、変な感じがする。

委員

- ・シンボル・プロジェクトの設定の妥当性は検証されているのか。推進すべき主な取組は県民局の取組の羅列に見える。事業見直しの必要はないのか。評価をどうしていくかの体制や、本当に5年間検証なく進めていくのかはチェックした方がよい。
- ・例えば野生動物共生林の整備と書いてあるが、もっと他に重点的に取り組むことがあるのではないか。その辺りの精査や検証の仕組みをどこで担保するのか。
- ・空間像で「森を活かす」とタイトルに入っているが、守ることばかり書かれていて、活かす部分があまり見えない。守ることにもっと共感を呼ぶようなアプローチが必要。それを資源として活かし、獣害対策を関係人口と一緒にやっていく。そういう取組を、生態系を守るための取組として実施すればよいのではないか。
- ・子育て支援について、ほとんど書かれていない。移住してもらうために重要。もっと考えるべき。

- ・丹波地域らしい子育てとして端的に言えることは、豊かな自然環境があること、農産物などの資源を活かすこと、地域の伝統文化を活かすこと、地域に多くある地縁団体とのネットワークをつくっていくこと、ではないか。
- ・地域全体で子育てをしていくということが全国的にも言われているが、子育てだけでなく、双方向的、同時解決的に地域に貢献していくような、つながりやネットワークのプロジェクトを考えてはどうか。

事務局

- ・シンボル・プロジェクトについては、それぞれの主要項目の実現に資することを大前提に組み立てている。
- ・推進すべき主な取り組みについては、毎年度方向性を検証し、見直しをしていく。
- ・子育て支援については、引き続きご意見を伺いながら、丹波らしい子育てを考えていきたい。

委員

- ・若者が元気に地域づくりに参加できる仕掛けをつくるのは重要。若者は思っても見ない力を発揮する。最近では、丹波市の高校生がモンブランを一度に大勢の人数で食べるプロジェクトを実施し、ギネス記録に認定された。数人でその仕組みを立ち上げて、多くの支援を得た。
- ・よさこいソーランのグループなど、若者もきっかけがあれば伝統文化に新たな息吹を吹き込める。
- ・石見神楽（島根県）では、若者が地域に定住しながら、神楽の概念を超える新たな取組がなされている。丹波には古い伝統文化が集落に多く残っているが、それを生まれ変わらせることによって、若者自身も丹波で元気に暮らせるようになる可能性は大いにある。
- ・最近丹波地域でも、狂言や能で、新しい形のものを作り出そうという動きもある。そのような仕組みをつくっていただければ。

委員

- ・用語集が追加され、分かりやすくなった。
- ・SDGsを達成できるように、それに沿って計画すると書いてあった。SDGsとの関係性が見えてくると、分かりやすいのではないか。
- ・展開方向15が気になる。e-ラーニングを進める前に、土台の部分となる、経済格差や奨学金の充実、スクールソーシャルワーカーの設置、自己否定感を抱かせない教育などについても書くべきではないか。

角野委員長

- ・パブリック・コメントについては、本日の案を基本にしながら、事務局とともに必要な修正を加えた上で実施する。なお、パブリック・コメント期間中やそれ以降も、委員の方からは適宜ご意見をお願いしたい。

議題（２）資料編

事務局から説明

角野委員長

・資料編についてももしっかり読み込んでいただき、ご意見があればいつでも事務局でお答えできるようにしていただく。

議題（３）パブリック・コメントの実施

事務局から説明

・令和３年１２月２７日（月）から令和４年１月１７日（月）での実施を予定。
・随時皆様からのご意見を頂き、パブリック・コメントの結果と併せて、次回の検討委員会で修正した内容をお示しする。

議題（４）その他

事務局から説明

・参考資料１は、丹波新地域ビジョンを描く将来像絵図をお示しする予定だったが、今回は令和２年度の科学技術白書のイメージ図でお示ししている。
・今後、丹波のイメージにあったものになるように調整していき、できあがり次第本体に差し込み、一目で３０年後の丹波をイメージできるものにする。
・パブリック・コメントを実施し、そのご意見も反映した地域ビジョンを２月に開催予定の検討委員会でご協議いただき、３月に策定の予定。
・３月には「丹波の森夢会議」を開催し、概要版を含めて、そこでのお披露目を予定している。

（３） 閉会

今井局長

・２月に実施する最終の検討委員会までまだ日数はあるが、思いついた時にはいつでもご意見を頂きたい。
・パブリック・コメントについては、皆様にもご協力いただきたい。もっと深掘りすべきという分野があれば、その専門家の方にご意見を出していただくようお願いいただけるとありがたい。